

電力システム解析論

第1回 送電線路のモデルと インダクタンス1

平成26年10月07日

電力系統の構成

- 発電機(発電所)
- 負荷
- 変圧器(変電所)
- 送電線(送電・配電)
 - 架空線
 - ケーブル
 - 地中
 - 海底
 - ガス管路

送電線

- 要素
 - 抵抗
 - インダクタンス
 - キャパシタンス
 - コンダクタンス
- 材料の変化
 - 銅→アルミニウム
 - コスト
 - 重量
 - 同抵抗で断面積大
 - 硬銅97.3%, Al61%
 - 撚りにより1~2%増
 - 導体表面での電界強度低くなる
 - コロナ放電がおきにくい

架空送電線

- AAC: All Aluminum conductors
- AAAC: All Aluminum Alloy conductors
- ACSR: Aluminum conductor, steel reinforced
- ACAR: Aluminum conductor, alloy reinforced
- 表皮効果があるので芯線の抵抗の影響小

送電線の抵抗

- 直流抵抗

- $R_0 = \frac{\rho l}{A} \Omega$

- ρ : 導体の抵抗率, l : 導体長, A : 導体断面積

- 交流抵抗は異なる

- 表皮効果, 近接効果

- 温度特性

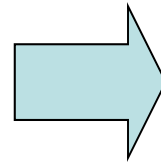
- $\frac{R_2}{R_1} = \frac{T+t_2}{T+t_1}$

- R_1, R_2 : 温度 t_1, t_2 の導体抵抗, T : 温度

電磁気現象

- Maxwellの方程式(微分表示)

$$\left\{ \begin{array}{l} \nabla \times E = -\mu_0 \frac{\partial H}{\partial t} \\ \nabla \times H = J + \varepsilon_0 \frac{\partial E}{\partial t} \\ \nabla \cdot \varepsilon_0 E = \rho \\ \nabla \cdot \mu_0 H = 0 \end{array} \right.$$



FDTD (Finite-difference time-domain)法
などで解く
(空間・時間領域での
差分方程式に展開して
逐次計算をすることで、
電場・磁場を求める)

分布定数回路

- 過渡回路と交流回路

- 単位長あたり

- 抵抗: $R[\Omega]$, インダクタンス: $L[H]$,

- 静電容量: $C[F]$, 漏れコンダクタンス: $G[S]$

過渡回路

$$\begin{cases} \frac{\partial V}{\partial x} = -RI - L \frac{\partial I}{\partial t} \\ \frac{\partial I}{\partial x} = -GV - C \frac{\partial V}{\partial t} \end{cases}$$

交流回路

$$\begin{cases} \frac{d\dot{V}}{dx} = -(R + j\omega L)\dot{I} \\ \frac{d\dot{I}}{dx} = -(G + j\omega C)\dot{V} \end{cases}$$

ただし, 交流の角周波数: $\omega[\text{rad/s}]$

集中定数回路

- 単位長あたり

- 直列インピーダンス[Ω/km]

$$\dot{Z} = R + j\omega L$$

- 並列アドミタンス[S/km]

$$\dot{Y} = G + j\omega C$$

- 長さXの線路のインピーダンス, アドミタンス

$$X\dot{Z}, X\dot{Y}$$

- T型, π型等価回路で模擬

送電線のインダクタンス

- 誘導電圧 $e = \frac{d\tau}{dt}$
- e:誘導電圧(V), τ :鎖交磁束 (Wbt)
 - Wbt:磁束(Wb)と鎖交する回路のターン数tの積
 - 二導体回路では各導体の外部磁束は他の回路に一回鎖交する
 - 透磁率一定の場合, 鎖交磁束は電流に比例
 - 誘導電圧は電流変化率に比例

$$e = L \frac{di}{dt}$$

- L:比例定数・回路のインダクタンス(H), di/dt :電流変化率(A/s) $L = \frac{d\tau}{di}$

- 線形システムの場合
 - 鎖交磁束は電流に比例
 - 磁気回路は一定の透磁率を持つ

$$L = \frac{\tau}{i}$$

送電線のインダクタンス

- 交流回路(正弦波電流)

- 自己インダクタンスの定義
電流に対する鎖交磁束

$$\tau = Li$$

- 鎖交磁束のフェーザ表示

$$\dot{\Psi} = L\dot{I}$$

Ψ :鎖交磁束のフェーザ, I :電流のフェーザ

- 鎖交磁束による電圧降下

$$\begin{aligned}\dot{V} &= j\omega\dot{\Psi} \\ &= j\omega L\dot{I}\end{aligned}$$

送電線のインダクタンス

- 交流回路(正弦波電流)
 - 相互インダクタンスの定義
他の回路に流れる電流に起因する鎖交磁束

- 鎖交磁束のフェーザ表示

$$\dot{M}_{12} = \frac{\dot{\Psi}_{12}}{\dot{I}_2}$$

\dot{I}_2 : 回路2に流れる電流のフェーザ, $\dot{\Psi}_{12}$: 回路2に流れる電流 \dot{I}_2 により生じる回路1の鎖交磁束のフェーザ

- 回路2の鎖交磁束による回路1に生じる電圧降下

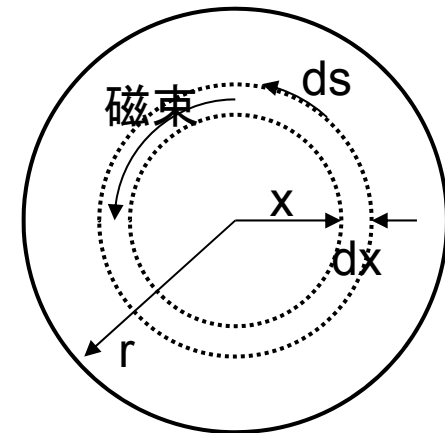
$$\dot{V}_1 = j\omega M_{12} \dot{I}_2 = j\omega \dot{\Psi}_{12}$$

送電線のインダクタンス 内部鎖交磁束

- 送電線は太い中実導体
- 電線外部の鎖交磁束だけでなく、電線内部の鎖交磁束を考える必要あり
 - 送電線を円柱導体として考える
 - 帰路は十分離れていると仮定
 - 磁束は同心円状に分布すると仮定
 - 起磁力は電流経路のATに比例

$$mmf = \oint H \cdot ds = I$$

H:磁界強度(AT/m), s:経路(m), I:電流(A)



送電線のインダクタンス 内部鎖交磁束

- 中心から距離 x (m)の内側の電流 I_x (A)による磁界強度 H_x (AT/m)

$$\oint H_x ds = I_x \quad \Rightarrow \quad 2\pi x H_x = I_x$$

- 全電流 I (A)に対する I_x (A)の割合

$$I_x = \frac{\pi x^2}{\pi r^2} I$$

- 全電流に対する H_x (AT/m)

$$H_x = \frac{1}{2\pi x} I_x = \frac{x}{2\pi r^2} I$$

- H_x に対する磁束密度 B_x (Wb/m²)

$$B_x = \mu H_x = \frac{\mu x}{2\pi r^2} I$$

ただし μ は導体の透磁率

送電線のインダクタンス 内部鎖交磁束

- 厚さ dx (m)の円筒導体の磁束 $d\phi$ (Wb/m)
 - 磁束密度 B_x (Wb/m²)と磁力線の法線方向 dx (m)積

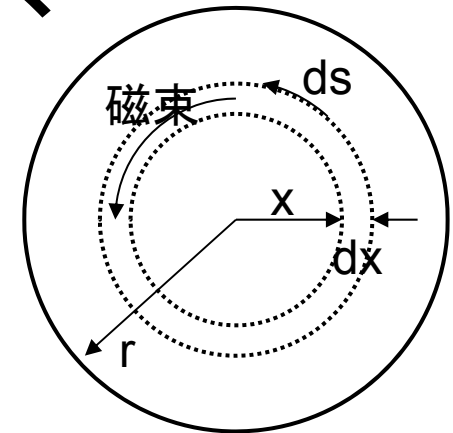
$$d\phi = \frac{\mu x I}{2\pi r^2} dx$$

- 円筒内部の電流に鎖交する単位長当たりの鎖交磁束 $d\psi$ (WbT/m)

$$d\psi = \frac{\pi x^2}{\pi r^2} d\phi = \frac{\pi x^2}{\pi r^2} \frac{\mu x I}{2\pi r^2} dx = \frac{\mu x^3 I}{2\pi r^4} dx$$

送電線のインダクタンス

内部鎖交磁束



- 全内部鎖交磁束 ψ_{int} (WbT/m)
 - 半径方向に積分

$$\psi_{\text{int}} = \int_0^r \frac{\mu x^3 I}{2\pi r^4} dx = \frac{\mu I}{2\pi r^4} \left[\frac{x^4}{4} \right]_0^r = \frac{\mu I}{2\pi r^4} \frac{r^4}{4} = \frac{\mu I}{8\pi}$$

- 空気の比透磁率 1
- 真空の透磁率 $\mu_0 = 4\pi \times 10^{-7} \text{H/m}$

$$\Psi = LI$$

$$\psi_{\text{int}} = \frac{I}{8\pi} 4\pi \times 10^{-7} = \frac{I}{2} \times 10^{-7} \quad \Rightarrow \quad L_{\text{int}} = \frac{1}{2} \times 10^{-7}$$

内部インダクタンス

導体径には関係しない 15